

【概要版】脆弱性骨折の予防を目的とした骨粗鬆症疾患啓発事業 報告書 恵庭市役所 国保医療課

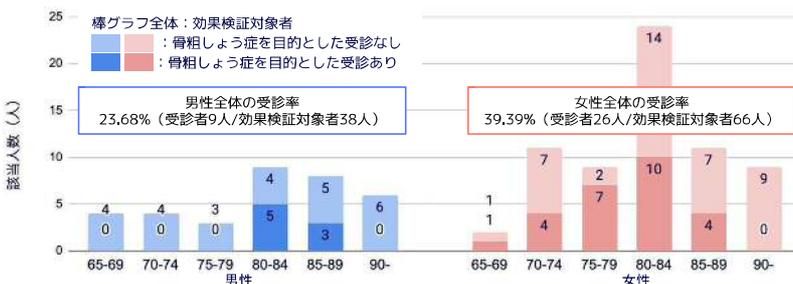
事業の背景	事業の内容
<p>目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 骨粗鬆症に起因する骨折について伝えることで、対象者を適切な検査や治療へと導き、健康寿命の延伸に寄与すること。 <p>背景</p> <ul style="list-style-type: none"> 脆弱性骨折は、QOL（生活の質）及びADL（日常生活動作）の低下や、死亡率の悪化を引き起こす。 脆弱性骨折を経験した患者は、骨粗鬆症による二次骨折をくり返すリスクが高く、骨粗鬆症の治療の必要性が大きい。 しかし、現状の骨粗鬆症の治療率は十分でない。恵庭市でも脆弱性骨折を経験した患者のうち約6割が適切に治療を受けていないことが明らかになった。 これらの状況を受け、本事業では、骨粗鬆症治療率の改善を通じた二次骨折の予防を目指した。 <p>体制</p> <ul style="list-style-type: none"> アムジェン株式会社、株式会社キャンサーズキャンと骨粗鬆症疾患啓発の協定を令和4年12月に締結し、受診勧奨通知の発送や効果の検証等などは株式会社キャンサーズキャンが実施した。 	<p>対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> 恵庭市国民健康保険または恵庭市在住の後期高齢者医療制度の加入者のうち、下の条件の両方に該当する者（直近約5年間の診療報酬明細書を参照） <ul style="list-style-type: none"> 大腿骨近位部または椎体の脆弱性骨折の既往歴がある者 骨粗鬆症の未治療者または治療中断者 <pre> graph TD A[恵庭市国民健康保険または後期高齢者医療制度 加入者] --> B[大腿骨近位部または椎体の脆弱性骨折の既往あり] B --> C[骨粗鬆症治療あり] B --> D[骨粗鬆症治療なし] C --> E[直近6か月で骨粗鬆症の治療なし] D --> E E --> F[他疾患等、除外の条件に該当しない] F --> G[治療中断者 74人] F --> H[未治療者 47人] </pre> <p>スケジュール・介入内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年3月31日及び5月19日に受診勧奨通知を送付 4月から9月のレセプトにて受診勧奨の効果を検証

1

【概要版】脆弱性骨折の予防を目的とした骨粗鬆症疾患啓発事業 報告書 恵庭市役所 国保医療課

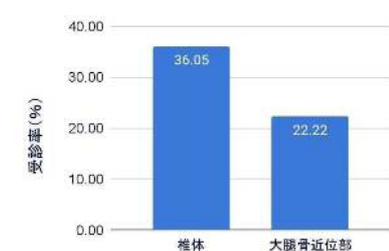
事業の結果・考察
<p>事業の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 受診勧奨通知の発送後6か月間で、受診率は33.65%（受診者35人/効果検証対象者104人）に至った。 性別では、女性の受診率が男性のものより高く、また効果検証対象者が最も多い女性80-84歳で41.67%（受診者10人/効果検証対象者24人）の受診率が見られた（図1）。 大腿骨近位部の受傷歴がある群に比較して、椎体骨折の受傷歴がある群でより高い受診率が見られた（図2）。 <p>考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 脆弱性骨折の既往があり、かつ骨粗しょう症骨粗鬆症の治療が必要と考えられる方に個別の受診勧奨通知を送付することで、医療機関受診を促せることがわかった。 事業対象者には女性が多かったことから、女性の受診率をさらに伸ばしていく施策が重要であるのに加え、男性の行動変容をより促す対策も必要と考えられる。 椎体骨折の患者は、骨折の自覚がないケースもあり、受診勧奨通知がより効果的に働いた可能性がある。

図1 受診者数及び未受診者数（性年代別）



※40-64歳については、男性50-54、55-59歳でそれぞれ2人が効果検証対象者に該当し、50-54歳で受診者が1人だった。

図2 受診率（骨折部位別）



2